

# 平成21年産粗飼料の傾向

## ●乾草(1番草)の傾向(表1、図1)

21年産チモシー主体混播1番乾草の平均値(表1)を見ると、ここ4カ年は粗蛋白質が低く、OCW、ADFといった繊維が高い傾向が続いています。更に、繊維の消化性とも関連してくるリグニンの分布を見ると、昨年よりも5%以上の占める割合が多くなっているのが分かります(図1)。

表1. 乾草の平均値(乾物%)

	水分	粗蛋白	ADF	OCW	NFC
H21	16.3	7.5	42.3	73.5	15.4
H20	15.8	7.1	42.1	72.8	16.1
H19	16.2	7.3	42.2	72.8	16.1
H18	17.3	7.7	41.8	71.5	17.1
H17	17.4	9.1	39.8	67.9	17.6

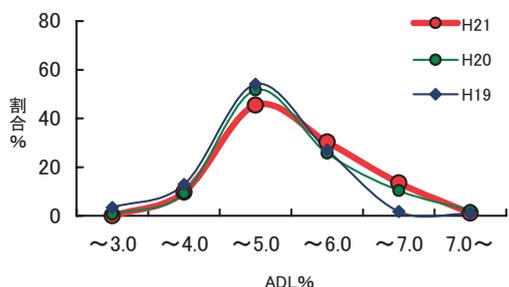


図1. 混播乾草のリグニン(ADL)分布

## ●牧草サイレージ(1番草)の傾向(表2、3、4、図2、3、4)

表2. 牧草サイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	粗蛋白	ADF	OCW	NFC
H21	4.26	73.5	11.9	41.6	70.1	10.5
H20	4.21	73.3	11.9	41.2	68.7	10.9
H19	4.30	73.7	11.8	41.7	69.3	10.7
H18	4.37	74.1	12.4	41.1	68.7	10.8
H17	4.23	73.5	13.1	39.1	66.0	12.1

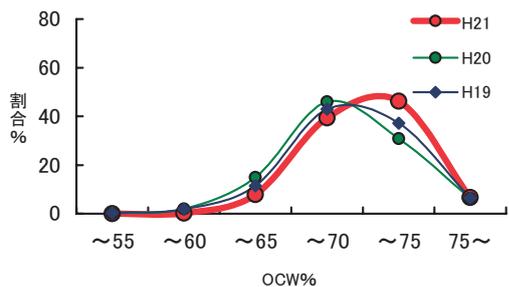


図2. サイレージのOCW分布

21年産牧草サイレージでも低粗蛋白質、高繊維といったここ数年の傾向は引き続いており、更に高繊維の傾向が強いです(表2)。OCWの分布を見てみると、70~75%の割合がここ3カ年で一番高いことが分かります(図2)。また、21年産TDNについては、例年分布の中心となるTDN58~60ではなく、TDN56~58が分布の中心となっています(図3)。

また発酵品質では、例年に比べて有機酸量が少なく、総酸や乳酸が低いことが分かります(表3、図4)。発酵品質の評価となるV-Score平均値を見ると、若干改善傾向にも見えますが、きちんとした乳酸発酵がされていないサイレージが増えてきているようにも思えます。

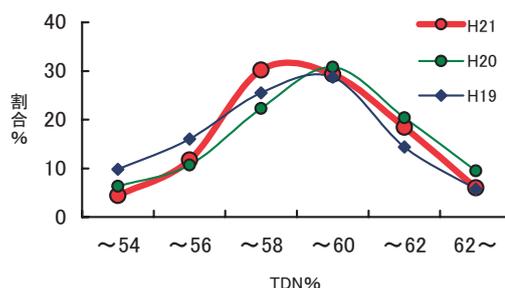


図3. サイレージのTDN分布

表3. 牧草サイレージにおける5カ年の発酵品質平均値推移

	pH	総酸	乳酸	酪酸	VBN/T-N	V-Score
H21	4.26	1.75	1.08	0.17	10.4	74.9
H20	4.21	2.04	1.31	0.23	9.7	73.8
H19	4.30	2.37	1.34	0.31	13.2	62.6
H18	4.37	2.40	1.35	0.26	14.8	61.6
H17	4.23	2.21	1.44	0.18	10.9	72.0

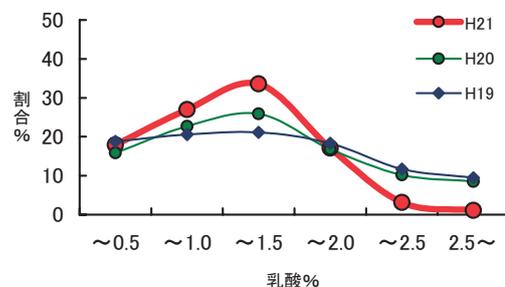


図4. サイレージの乳酸分布

ラップサイレージも同傾向にあり、高繊維の影響はNFCにも表れ、低い傾向となっています(表4)。

表4. ラップサイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	粗蛋白	ADF	OCW	NFC
H21	5.03	41.9	10.5	41.3	69.9	14.3
H20	4.88	41.4	10.0	41.4	69.5	14.6
H19	4.89	41.9	10.5	40.9	68.5	14.9
H18	4.87	44.5	10.6	41.1	69.0	14.6
H17	4.98	41.0	11.3	37.5	65.2	16.9

## ●まとめ

21年産粗飼料は、低粗蛋白質、高繊維傾向が続いています。そのため、生産性維持にむけた蛋白質、エネルギーの補給が必要となってきます。給与に際しては配合飼料等で養分バランスをとるだけでなく、しっかりと乾物摂取量を確保してあげることも忘れずに行ってください。

現在、まさに21年産粗飼料を給与している時期かと思えます。今回の内容を情報として利用していただければと考えます。(分析グループ篠田)

## 雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範  
 本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号  
 TEL (011)891-5911  
 FAX (011)891-5774